

令和6年度 第1回 宇治市歴史的風致維持向上協議会会議録＜概要＞

日時：令和6年5月28日（火）14時00分16時00分

場所：宇治市役所庁舎8階 大会議室

1. 協議会次第

- (1) 委員紹介
- (2) 開会あいさつ
- (3) 報告 歴史的風致維持向上計画の軽微な変更について
- (4) 議事 歴史的風致維持向上計画の令和5年度進捗評価について
歴史的風致維持向上計画の令和6年度事業について

2. 出席委員

清水 重敦会長
杉本 宏副会長
山口 敬太委員
吉川 圓良委員
池本 将孝委員
西本 浩委員
多田 重光委員
藤井 整委員（代理）
岸田 秀紀委員
前田 志朗委員（代理）
脇坂 英昭委員
福井 康晴委員
飯田 克夫委員
米田 晃之委員

3. 欠席委員

藤井 武雄委員（欠席）、吉水 利明委員（欠席）

4. 事務局

歴史まちづくり推進課	課長	谷澤 潔
	副課長	大谷 由欣代
	文化財保護係長	上田 章詞
	文化財保護係主査	森 是孝

農林茶業課長	齋藤 政也（欠席）
観光振興課長	木田 陽子
学校教育課長	安留 岳宣（欠席）
道路建設課長	大島 由光（代理）
博物館管理課長	家塚 智子
建設総括室	柴田 努
政策戦略課長	佐々木 卓也

5. その他の出席者

なし

6. 会議概要

- （1）委員の紹介
- （2）開会あいさつ（米田都市整備部長より）
- （3）報告 歴史的風致維持向上計画の軽微な変更について
- （4）議事 歴史的風致維持向上計画の令和5年度進捗評価について
歴史的風致維持向上計画の令和6年度事業について

事務局から説明

委員：景観形成助成の件数が0件だった理由は何かあるのか。来年度に向けて何か活用をはかっていくための考えがあるのか伺いたい。

事務局：こちらにつきましては、周知ということで市政だよりへの掲載や助成対象の建造物全戸にチラシの配布をさせていただいたのですが、何件か相談は頂いたが、スケジュール的に合わなかったり、助成対象の事業に該当しなかったりと、残念ながら活用いただけなかった。今年度についても、対象建造物全戸へのチラシ配布等もさせていただいています。対象エリアでの建物の改修であるとかご相談をいただいた折には、制度の方のご案内も逐次させていただきながら、活用してもらいたいと考えております。

会長：京都市内、優良広告物等の表彰制度などがあります。難しいかもしれませんが、今後検討してやりませんか。

委員：茶づなからの情報発信ということで、最近またインバウンドが増えています。茶づなで、いわゆる体験をされている外国人の方がどれくらい増えているのか、ということと、平等院からの周遊の状況を教えていただければと思います。

事務局：茶づなでの情報発信については具体的なインバウンドの数字は持ち合わせておりませんが、お茶の体験についてはインバウンドの方が増えていると聞いています。コロナが終息に向かって以降、特に平日はインバウンドの方が多い傾向にあります。また、平等院からの周遊では、ツアーで来られる方や、個人の方

などがありまして、統計的にはわかりかねるところではありますが、平等院からまわってきていただいたり、逆に茶づなから平等院や宇治市内をまわっていただいたりしているところがございます。

委員：長時間滞在されるような方が、どういう目的でこられた方なのかといった基礎的なデータが少しずつでも整理できていると、さらに次へ足がかりになるのかなと思います。

会長：茶づなの体験は英語や中国語などで対応されているのですか？

委員：事前の予約でわかる場合もありますので、その都度対応しております。

委員：宇治川の東、興聖寺の門から亀石楼、さらに上流へ進んだ紅斎に少し奥まったところがありまして、そこに雨が降ると現れる滝があります。宇治川沿いには黒い岩盤が露出しているところもありますが、雑木に隠れてあまり目立たない。山の木が大切だというのが、雑木が多い。あのあたりをきれいに整備していただければと絶景になるのではないかと思います。今回、そこに観音様と七福神をお祀りしました。興聖寺のためというよりも、宇治川東、宇治源氏タウンの方々にもよい影響があるのではないかと思います。遊び場にもなると思います。市の発展にも活かしてもらえたらと思います。

また、山林は5、6万坪ありまして大半はシイの木です。岩盤の上に生えているため根が浅いです。今あるシイの木は60年くらいです。ツバキもあります。ツバキは一重もあれば八重もある。戦争でマツを伐ってしまい、そのあとにシイやツバキを植えているのだと思います。水の取り合いをして根が小さいのに、シイなどは背が高く枝が大きいので、台風などで倒れるなど大災害になる。急に伐ってしまうと山が裸になってしまうが、根を残しておくとも萌芽が出て山の緑が保たれますし、山が崩れる心配もない。管理や更新など市や先生方にも検討していただいて実験したこともありますが課題が多い。また宇治山田はイノシシがよく出たが、最近シカがはびこっていて、この対策をしないといけない。皆さんのご理解と御協力がなければ進みません。市は「してはいけない」という話をする。しかしなぜそうしないといけないのか考えてほしい。6万坪の寺領であるけれども、皆さんと共に国の宝だと思うし、市の財産だと思います。西の方を見ると眼下に平等院を望む絶景でもあります。共に一緒に考えてほしい。以前に千両、万両を植えると言って「ダメだ」と言われた。一緒に考えて、よりよい活用をしていただきたいと思います。

委員：源氏物語ミュージアムは来館者が一万人を早くも達成し、茶づなのドラマ展は少し苦戦をしているなという感じですが、行政にテコ入れをしてもらいましてマイクロバスの運行や市民の招待など様々な工夫をいただいているところですが、これから大河ドラマ展が来年1月までであるというなかで、やっぱり弱いところ、今後秋口に向けての人を呼び込むための広報とか、SNSなどをどのよ

うなことを考えておられるかという点を聞きたいというところと、私、縣神社の大幣神事に携わっておりまして、本年も6月に開催しますが、昨年から変わってきているのが、円安の影響もあってインバウンドの方が朝早くから多いということがあります。警察に道路使用許可を取りに行ったときに、特に馬がいますので外国の方などがフラッシュ撮影されると、馬が暴れてしまって、まつりそのものが継続できなくなってしまうという心配を大幣座の方はもっておりまして、やはり警備員に人員をかけなくてはいけないという風になってきてしまっております。土曜日ということもあり昨年よりも人員を増やすのですが、縣神社の方でしているお祭りですので収支の点で厳しいところがありますので、文化財の補助に警備などの人件費に充てることができないのかなど相談したい。また宮司の交代に伴い祭りの方法も少し変わってきておりまして、今まで大幣神事の翌週に大幣のつくる作業をしていたのですが、来年からは歴史的風致維持向上計画にもありますように本来の6月1日につくって2日御幣をはるというように戻すことを検討していますのでまた歴まちにも報告します。

事務局：大河ドラマ展ですが、5月中旬すぎて大体2万人くらいにお越しいただいているところでございます。当初の計画よりは、という所ではありますが、今各地でプロモーションの活動なども力を入れておりまして、できるだけ多くの方に大河展を行っている茶づなに足を運んでいただくという所を目指して取り組んでいるところです。紫式部ゆかりのまちプロジェクトというところでも地元の方々含めて各課連携して取り組んでいるところでございます。夏のイベント「京の七夕」でも今年は紫式部をイメージしたものなどを考えており、そういったイベントなどで紫式部関連の取り組みを行っていく中で、多くの人にお越しいただけるようにしたいと考えております。

委員：3ページ目の「巡行する伝統的祭礼との調和」の伝統的祭礼は何を指すのか教えてください。茶づなでSNS等での国内・海外への情報発信をしている、とありますが、海外へは英語で発信しているのかどうか。お茶のおもてなしは農林茶業課がサンガタウンや京都大作戦などされていますが、京の七夕で宇治に来られた方へ何かされるとかいう計画はあるかということと、文化財見学会ですが、なかなか安全確保ができないということで見送っておられるのですが、これがいつ再開されるのかという予定と、代替えで違うところで何かされる予定などあるかどうか教えてください。

事務局：伝統的祭礼でございますが、大幣神事であるとか宇治神社、宇治上神社の神輿の巡行といったおまつりとの調和を図るということで美装化を考えております。文化財の公開については、庵寺山古墳の公開になりますが、こちらは広野町の住宅地の中にありまして周りが一般住宅であるというような状況がございますので、今現在、木製の階段等を設けているのですが、整備の時からもう30年

以上経っておりまして老朽化しているという状況でございまして、修理の方をどうしていくか、また、活用のしかた、公開方法について検討をしているところでございます。代替施策でございしますが、今年度につきましては紫式部の関連事業ということで、平安時代の文化財ということで、そこに焦点を当てたという形で平安時代の文化財指定を受けている仏像について、社寺の方にお声掛けをして、できれば一般公開みたいなことを予定しているところでございます。

茶づなの発信の件でございますけれども、ホームページにつきましては英語で対応をしております。また TikTok で外国人向けの発信をしています。京の七夕でのお茶については実行委員会で実施しておりますので、そちらの方で検討を進めてまいりたいと思います。

会 長：文化財の公開については個別案件ばかり取り上げられていて、最近の文化財の保存活用の流れに対してすごく限定的だなと思います。前回も話に出ました文化財の地域総合計画が進むのか、進まないのかという話があったと思うのですが、その中で総合的に活動していきましょう、という位置付けで積極的にやっていただかないと、ちょっと厳しいかなと思います。

委 員：先ほど山口委員から、茶づなのインバウンド状況というようなお話もあったと思うのですが、今、観光協会、J R宇治駅前、そして京阪宇治駅、そして観光センター、近鉄の大久保駅前に観光案内所がございまして。こちらの方は団体旅行のお客様ではなく、個人旅行のお客さんになるのですが、令和5年度で観光案内所に入られた方で国内と国外をわけると、大体4割が海外のお客さんです。その4割のうち、令和5年度は約56%が東アジアになっています。令和元年は75%が東アジアだったのですが、まだ中国本土から団体が入っていないことがありまして元年度に比べるとアメリカから来られる方が倍になっております。そういう意味で言いますと15ページの市営茶室対鳳庵の活用というところについてですが、コロナ明けというところで、徐々にインバウンドも増えてきたというところでございます。入席料が以前は500円でしたが、今は1000円に上げたと言いながら、入席者数はほぼ戻ってきているような感じでございます。茶どころ宇治ということで、やはりいいお茶を使っているのですからそれなりに評価を頂こう、ということで宇治市の方で料金を倍にして落ち着いているという所ですが、こちらの方は令和5年度1万4000人ほどあるのですけれども、そのうちの6割が海外のお客様で国内をこえております。その6割のうち、ほとんどが団体というよりは個人のお客様で、欧米系、特にヨーロッパ系のお客様が非常に多いというところで5年度を終えた、というような形でございます。この委員会であまりインバウンドという言葉が今まで使われてなかったというのがありますが、今回の今日の委員会が結構インバウンドというのが出てきたので、ちょっと数値的なものだけのご報告になるのですが、お伝えさせて

いただきたいというようなところと、もう1つ、池本委員がお見えになっているのですが、最後に大幣さんで御幣を橋から流されますよね。去年もあったのですが、地元の小学生から、あれはごみではないのですか、あれは撤去されるのですか、という質問を子供たちから受けておりまして、非常に答え方を困りました。厄を払うということで川に流された、いうのがあるのですが、その後、浅瀬で止まってしまうと、そのまま下流にいったらいいという問題ではないと思うのですが、処理的なもので、もしくは、観光案内でもそういうことを聞かれたときにどういう返答で統一したほうがいいとか、またそういうのをちょっと教えていただければと思っておりますよろしくお願いいたします。

委員：近年は基本的には回収をする、という前提で流しております。ただ水量とかもろもろの関係で、やはり危険を冒してまで回収というわけにはいきませんので、できる限り回収をするという前提のもとに、流すというのが、河川管理者や関係する方々とのお話の中で、まとまった話でございます。

会長：ありがとうございます。インバウンドの件は、今世の中インバウンドの話題がすごいので、やはりここでも真剣に考えないといけないことになってきていると思います。ちなみに対鳳庵では英語対応というのは、どのような形でされているのでしょうか。それを今後、改善とか計画があるかどうか、教えていただければと思います。

委員：事務局にかわってお答えさせていただきます。対鳳庵では大体の方が英語で対応するのですが、聞かれることもほぼ決まっているので、そこさえ答えられれば、日常会話まではいかなくてもお話が通じるというようなところと、お点前をされる先生によっては、お年寄りの先生もおられるのですが、あくまでも日本語でいかれる先生もおられます。ただ、なんで日本語ばかりなのか、英語が通じない、というクレームはありません。やはり茶室の雰囲気味わっていただくというところなので、自信を持って海外の方にも対応させていただいております。

会長：英語でQ&Aみたいなものが、用意されていれば解決しそうな感じがします。

委員：茶杓とか、茶筌とかいうのはなかなか表現が難しいので、それはそのままやっていくのですが、それ以外に畳の縁に座ったらだめとか、床の間に座られる方がおられたりとかしますが、正座を強要しないなど、いろいろあるのですが、茶道文化に触れていただくということで、皆さんご存じの上で来ていただいているのと、やはり靴を脱いで畳の上に座るところが、体験型の部分では評価が高いと聞いております。

会長：それに多言語による説明みたいな、紙の

委員：そうですね英文のパンフレットと、あと、室内でも所々にこういうちょっとした注意事項を書いたものを用意しております。

会 長：中国の方、東アジアの方も英語ですか。

事務局：英語で対応しております。それ以外はすべて日本語で対応しております。

委 員：5年度だけではなく6年度の話もちよっとかかりながらですが、先ほどの話にもありました興聖寺から向こう側は、いわば名勝宇治山の続きです。宇治橋からみて仏徳山、朝日山があつて、景観的なポイントになるところだということは皆さんご存じだとも思います。古い明治大正期の絵はがきを見ても名勝がいくつか出ています。先ほどの滝も、今日は雨なので出ていると思いますが、日頃は枯れ滝です。あれも宇治の観光絵はがきの中にあります。そういうポイントが結構あつて、かつて名勝だったところが現在は埋もれているという感じです。そういうところを掘り起こしながらやられるということは、とてもいいことじゃないかなと思います。それがいわゆる名勝宇治山の今後の追加指定範囲と同じですから、重要な話じゃないかなと思って聞いておりました。それと来年度に向かってということでもありますが、修景助成が0件というのは残念でしたけど、最近平等院の表参道も宇治橋通りもそうですが、新しいお店の出店が相次いでいます。それらは新しく建てるというよりは、もとの町家を購入されて直しながら新しいお店に変えておられるわけです。やはりその時に修景助成をつかっていただいて、もっといいようにしてよ、というような感じは事務局の方もお持ちだとも思いますけれども、せっかく新規出店が増えている中ですので、何とかそこをうまく、もう少しいい感じの町並みに生かしていけないのか、ということ 생각합니다。もう1つは観光のPRのことですけど、これまでもパンフレットをつくっておられて、歴まち課でもいろんなところでも作っておられて、インバウンドの関係のものもありますが、祭礼関係のものがありません。祭礼はその日で終わってしまうのでパンフレットにするのはなかなか辛いと思われるかもしれませんが、大幣神事でまわっている場所もそうですし、梵天さんが動いている場所も、宇治のまちの中の意味ある場所で、いろいろなことをされておられる。そういうこともわかるようなパンフレットなり何かがないのかな、というのはすごく思います。1日で終わる祭礼ではなく、そこで行われる所作、というものが、意味を持っているということです。一の坂で馬を馳せることなどもそうですし、祝詞をあげる、辻々で行う所作、いわばガードを張ってくわけです。そういうことがわかるような形で現地に何かないのかと思います。そういうものも含めて書かれているようなまち歩きマップみたいなものもないのか、と。またその英語版があればインバウンドの方も何となくわかるのではないかと思います。祭礼の所作はその場その場で終わってしまいますが、それぞれの所作が宇治のエリアのなかで不可分の関係でお祭りが行われているわけですから、それが分かるようなものがあるといいと思いました。もう1つ、自分もちよっと絡んでおきながらこんなこと言うのもなんですが、インバウンドと平安時代との関係、インバウン

ドがもっている文化教養の中で日本の平安時代がどの程度理解されながら、関心を持って足を運ばれているのかということを考えたときに、源氏物語ミュージアムはOKだと思います。源氏物語を知らなくても、ミュージアムはあそこで平安貴族の雰囲気を感じることができるし、ビジュアルだし、よいと思うのですが、茶づなでは難しいのではないかなと思います。だから工夫が要るだろうなと。大河ドラマのストーリー型になっているので、日本人じゃないとかなり難しいだろうと思います。それをもう少し平安文化型にして、何となくわかるような何かが本当はいるだろうな、という気もします。インバウンドの方たちにももう少しビジュアルに何かできるようなものがあればな、ということをちょっと思いました。例えば衣冠束帯で誰が立たせる。一緒に写真を撮らせる。外国の方はすぐ撮らして、となると思います。この前、大阪城で甲冑をきた人がいたときにも外国の人たちが写真を撮っていました。そういうものがすごく好きなので、そういうようなことも必要なんじゃないかなという気もしていました。最後にこれは6年度のこととあわせて、ちょっと重い話で申し訳ないのですけども、今事務局の方に本当に人が足らなくて、皆さんアップアップしながらお仕事をされるということは重々承知の上で言いますけれども、前回も指摘がありました、いま山間部が大変です。人口が減るということは、文化財を支えていた人もいなくなっていて、そこに指定文化財を置いたまま無住の寺がでる。宇治の山の中というのは、いわゆる醍醐寺の荘園だったところでそれなりに豊かな歴史を育んできている。今までの宇治の文化財保護施策というのは中宇治中心型でやっていて、特に山の中は手薄だった。それに関してはどうやっていくかも含めてちょっと考えて欲しいと思います。かなり厳しい状況になっているお寺さんもありますし、お宮さんもそうです。最近の新しい文化財の価値の広がりの中で、今までは全然文化財とは思えないものでも、これは文化財じゃないかというものも増えている。その辺を理解しながらやっていけるような、未指定文化財の調査はここにあるような、この遺跡がわからないで試掘しますというような話ではなく、宇治というまちの中に残っている様々なものを今日的な価値を踏まえながらリスト化していく、ということです。お忙しいことは重々承知しておりますが、自分たちで全部やれと言っているわけではなく、市民も含めたいろんな関わり合いの中で、そういうことを進めて欲しいということが希望としてあります。

会 長：最後の話はまた前回もありましたけれども、地域総合活用計画の取り組みで概ね解決する。ただし、それがものすごく負担があることですけど検討してください。あとマップを作るということは、私も同意します。歴まちはハード的なものとソフト的なものを重ねて歴史まちづくりをするということが、大切な理念ですが、行政は大体それが縦割りになって、それぞれやってよくできたでしょっ

ていうふうに示される。今日のお話も残念ながら 1 個 1 個の事業がよく進捗していますねと提示されて、全体としてどうなのかということがわかりにくい部分がありますよね。歴まちの要素を全部かさねたマップが作られるとその成果というか、今進んでいる事業といたしますか、理念といたしますか、そういったものが伝わりやすくなると、お話聞いてすごく思いました。

委員：マップは賛成です。例えば興聖寺の門の右側には 3 m 程の大きな亀石が見えます。先日水が少なかったので写真でもと思ったのですが結構危ない。それと興聖寺のお寺の上の大吉山と朝日山、朝日山はその上に菟道稚郎子のお墓がありますが、誰も知らないと思います。また同じ人でありながら別に御陵もある。市民にもわかるようになさったらいいと思う。今先生方から商業的な話が出たと思いますが、それも大切ですが子供らの情操教育や市民の健康増進、癒しのためにも一緒になって考えて活用したらいいと思います。

委員：現地説明会と、それから庵寺山古墳の修理というようなことがあまりうまくいかないというか、残念だなと思いつながら聞いていました。副会長から山の中の話もありましたけれども、平成 3 年の文化財保護法の改正以降、文化財活用のあり方がジャンルの異なる文化財を周遊するような方向性を持っているということもありますので、どういう所をまわせるかという、マップというお話も副会長からありましたけれども、どういう所をまわせるのかということイメージした上で修理するところの重点を決めて進めていかれた方がいいような気がいたしました。その中で、山の奥に行くと他の文化財は難しいと思いますが、埋蔵文化財はあると思いますので、そういうところを計画的に掘ったらどうかという、副会長の提案かなと聞いていましたが、その辺りも含めて埋蔵文化財活用の補助金もありますし、多言語化の補助金もありますので、ご相談いただけましたら私どもの方でも考えたいと思います。

委員：6 年度のホームページについてですが、源氏物語ミュージアムがすごく人気があるところで、太閤堤歴史公園とか対鳳庵とか、発信の拠点があるというところがすごく強いと思うのですが、歴史資料館の影がすごく薄くてもったいないと思います。こういう資料館があることで、今まで日の目を見なかった新しい歴史を掘り起こすという意味でも貴重な施設だと思うので、もう少し発信を頑張っていただきたい。場所がどうしてもこの歴史資料館は文化センターの中にひっそりあって、なかなか人が行きにくいところにあるということもあるとは思いますが、例えば茶づな 2 階の今ドラマ展をされているスペースとか、今後どういう活用されるか分からないですけど、ああいったところで資料館の展示をするとか、もう少し発信を頑張っていただけたらと思いました。

委員：道路の美装化というところが事業化しまして昨年 5 年度から工事に着手した、と書いていただいております。測量したり、計画をしたり、事業者さんと調

整したりということで、なかなか現場で進捗が見えるというところになっていなかったのですが、5年度から現地の工事に着手できましたので、工事中は地元の方とか、道路利用者にご迷惑をおかけしますけれども、我々も景観を良くしようという思いで最近地震に強いまちにするということで、電柱はないほうがいいのか、事業的には追い風なところもありますので、必要な予算を確保しながら進めていきたいと思っています。また我々は宇治公園、あそこは河川区域ですけど公園区域となっておりまして管理をしております。こういう観光ですとか、歴史的風致に繋がるようなイベントもあるかと思っています。私共許可権者でもありますが、できるだけ柔軟に対応していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。あと少し余談ですけども、昨日テレビで報道ステーションを見た後に、岡村成美の番組をやっていたのですけど宇治について1時間程度にわたって紹介しておりました。新しい最近の流行りのお店とかを紹介するという内容でしたが、その他にも縣まつりのことですか、今回の歴史的風致というようなものにもつながるような内容も含まれていました。やはりテレビの影響力というのはすごくて、大河ドラマもそうですけれども、昨日の番組でも、私みたいにたまたま見ている人間もいまして、どういう人と呼ばれたいか、今回は観光だけがテーマではないと思いますが、たくさん人が来てお金がおちて、それがこういう歴史的風致的景観の施設の維持にもつながるというようなことがあればいいんだろうなと思いました。そういう意味ではそういうテレビの力がすごいので上手にPRとかしていただいたらいいのではないかと、思います。ちょっと最後余談でしたが以上です。

会長：ありがとうございます。次に歴史的風致維持向上計画の令和6年度事業についてということで、事務局からの説明をお願いします。

事務局から説明

会長：では6年度事業について意見ございましたらどうぞ。

委員：文化財の保存、また活用に関する評価の中で、例えば資料1の19ページのところにライトアップのことが載っています。今年も行われるということですが、このような歴史文化の保存の方の課題に対して、直接役所が事業化して役所がやっていく、観光協会がやっていくとかいうことになると、どうしてもマンパワー的な問題があって、そういったところに民間事業者、各種活動団体とマッチングをしていく、もしくはそういう人たちを支援してそういったものを起こしていくというのが、これからの文化財保存活用においては重要になると思います。先ほどご説明の中でもあったお茶摘みバンクはすごく良いやり方で、まさにそういうマッチングに力を入れて、あとはもうそっちでやっていただくという形を、今後この事項とか項目の中で広げていける部分が1つでもふえるといいと思ってみていました。空き家の活用の話も出ておりましたが、歴史的

な建物を活用される時も外観、景観だけではなく歴史文化体験などを民間事業者の中でやっていこうという場合は若干上乘せをすとかあると、観光活用しながら文化体験をやりたいというような事業者を呼び込めたりする可能性もありますし、そういった形で観光を活用しながら文化財、指定登録されてない広義の文化財を再生していくというような大きな流れつくっていく必要があると思います。そういった中で今回の話では体験というのは、みんな平等に体験していただくというのが基本ベースになっているのですが、一方で文化財を保存しようとするとお金かかるので、高価格帯の文化体験ツアーをやっている事業者を呼び込むなどして再生していただくとか、特にインバウンドなどはその流れになっていると思うのですが、そのような人を育てていくとか、最近では文化庁の補助事業なども民間が手を挙げるものが増えています。ああいったものも今後活用していく中で、そういう人たちを育てていくというところのマッチング支援に力を入れていくというのは、この歴まちの中でも少しずつでもやっていけるかなと思って聞いていました。

会 長：高付加価値の体験というのは、他の歴史まち都市だと大体宿泊施設のセットになっていて、宿泊に宿坊や公民館を使われたりしていますが、宇治市はそこが欠けているというか、これからどのようにやっていくかというのも伺いたいと思いました。いかがでしょうか。観光の連携とか、文化財の活用にも関係することだと思うのですがいかがでしょうか。

事務局：観光イベントに関しては地元商店会と連携するような形で、今回も紫式部の連携イベントに関しても民間団体等で連携するような形で取り組むというところでございます。文化財に関しては今回の文化財公開は市主導でやるような形を考えていますが、この部分を民間さんの方がやっていただくような展開などでできればとは思っているところです。また今年度VRを作ってまち歩きもする予定ですけれども、VRの機材はありますので、それを観光ボランティアガイドさんの方で使っていただくとか、そういうような形ができればというのは、今まだ実現性があるものではありませんが、考えているところでございます。

会 長：VRって普通、ゴーグルを着けますよね？間違いですか。ARですか。

事務局：携帯なので、ARです。交通量もありますので、安全なポイントでそれをかざしていただくような形で見ていただく形になります。平安時代ですと碁盤の目のまち並みがありましたので、今の建物があるところに当時は道が通っていたとか、そういうものが体験できれば、ちょっと新たに違う体験ができるのではないかと考えているところでございます。

委 員：宇治十帖のスタンプラリーを毎年開催されて、今年もデジタルスタンプラリーというような方法になるのだと思うのですが、私は近隣の商店街で商売をしています、昔のスタンプラリーは、人は多いけどあまり売上げが上がらないと

というような印象で、市民の方がたくさんまわっていらっしやったというような形で。先ほども話出たと思いますが、デジタルスタンプラリーになったときに、開催日は長くなったけど参加者数はちょっと減ってきている。例年の 5 千人台から 8 千人台なっているっていうのが、今年はまた伸びてくるかなと思います。何かもうちょっと広報とか、昔、紙を持って歩いてた人たちももっと参加してもらえないかなと思っているので、そのあたりをどうされるかなと思います。あとスマホはなくても参加できるウォーキングマップを用意と書いてあるのですが、これを使った参加者数の集計はされていないのですか。

事務局：ウォーキングマップでの参加者の集計はしていますが、今手元に数を持ち合わせていません。

委員：スタンプラリーをデジタルでやっているが、街中でそれを行われているという雰囲気がちょっと余りにもないっていうと、ちょっと失礼かもしれませんが、そのあたりちょっと工夫していただければと思います。

会長：他にございますか。よろしいですか。では大体ご意見はいただいたということで、これで議事を終了といたしまして、事務局にお戻りする前に協議会を代表して私の方から内容をまとめさせていただきます。今日特に新しく、集中的に意見が出たのは、歴まちとインバウンドの関係を積極的に考えようということだと思います。歴まちはやはり第 1 に市民、住民の生活にとって有益なまちづくりということが前提だと私は思うわけですが、観光もとても重要なことですし、インバウンド対応というのは、まちのブランドの向上、ブランディングという意味でも欠かすことができないところだと思いますので、歴まちの中にインバウンドをどういうふうに取り入れるかというのは、次年度以降といいますか、もう始まっていますけど、積極的に議論すべきですし、この中に書き込まれるような事項になるかと考えられます。そして前回からも話に出ておりますが、今回のもう一つの大きい話は、文化財、歴史とか史跡、史跡も文化財ですけど、こういったものの総合的な調査が必要であって、文化財に指定されてないものも含めて、どんな文化財とか歴史があるかということも、掘り起こしが必要だということだと思います。これも改めて意見として出たかと思います。特に今ジャンルを超えた文化財の活用というものが、求められるようになってきていて、歴まちというものはまさに、それを推進するための大事な重要なツールになるかと思うので、こういった視点で、事業計画がなされることが大事だというふうに思います。これは歴まちだと重点地区の中の議論になってしまいますので、中宇治中心の議論になると思うのですが、中宇治以外についても考えるべきかと思います。そしてここで考える、或いは市の中で考えるということに加えて、民間ですとか市民との協働、こういったものを積極的にしていくということについても意見があったかと思います。今でもやっているところは当然あるわけですが、

より積極的にその色を事業の中に出していくということが必要だと思いました。以上の内容を協議されたかと思います。では本日の次第の4までこれで終了いたします。委員の皆様、どうもありがとうございました。それでマイクを事務局にお願いしたい。

事務局：清水会長ありがとうございます。委員の皆様も本日はお忙しい中、長時間にわたり誠にありがとうございました。これをもちまして令和6年度第1回宇治市歴史的風致維持向上協議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

《閉会》